

エジプト人口家族計画巡回指導調査団報告書

エジプト人口家族計画 巡回指導調査団報告書

平成4年10月

平成4年10月

国際協力事業団 医療協力部

405
98.2
MCN

医 二
JR
92-35

JICA LIBRARY



1113150(5)

エジプト人口家族計画
巡回指導調査団報告書

平成4年10月

国際協力事業団
医療協力部

国際協力事業団

36318

序 文

エジプト政府は深刻化する人口問題に対処すべく、過去において各援助国あるいは国際機関が援助を実施していない上ナイル地方の比較的開発の遅れた農村地域を対象とした母子保健と家族計画プロジェクトの協力を我が国に要請越した。これに応じて事前調査団が昭和62年に派遣され、平成元年9月には実施協議調査団が派遣され、討議議事録（R/D）が署名された。

上記討議議事録署名後速やかに我が国からの協力が開始されたが、今般プロジェクトの実施状況を調査確認し、当初合意された目標が円滑に達成されるよう必要な指導助言等を長期専門家及び相手国カウンターパートに対し実施することとなった。

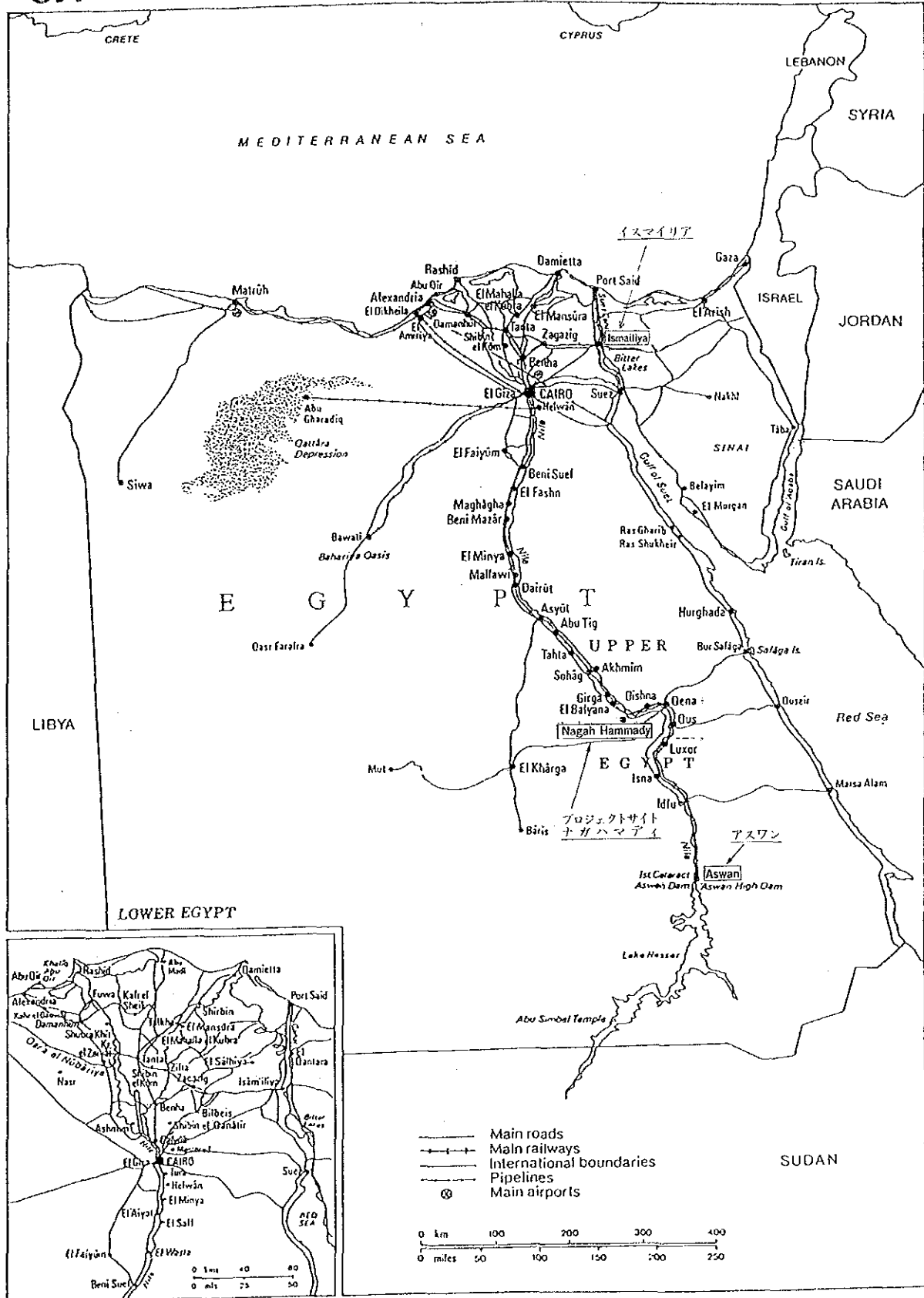
本報告書は同調査団の調査結果を取り纏めたものである。

なお本調査団派遣と調査に関しご協力をいただいた関係各位に対し深甚なる謝意を表する次第である。

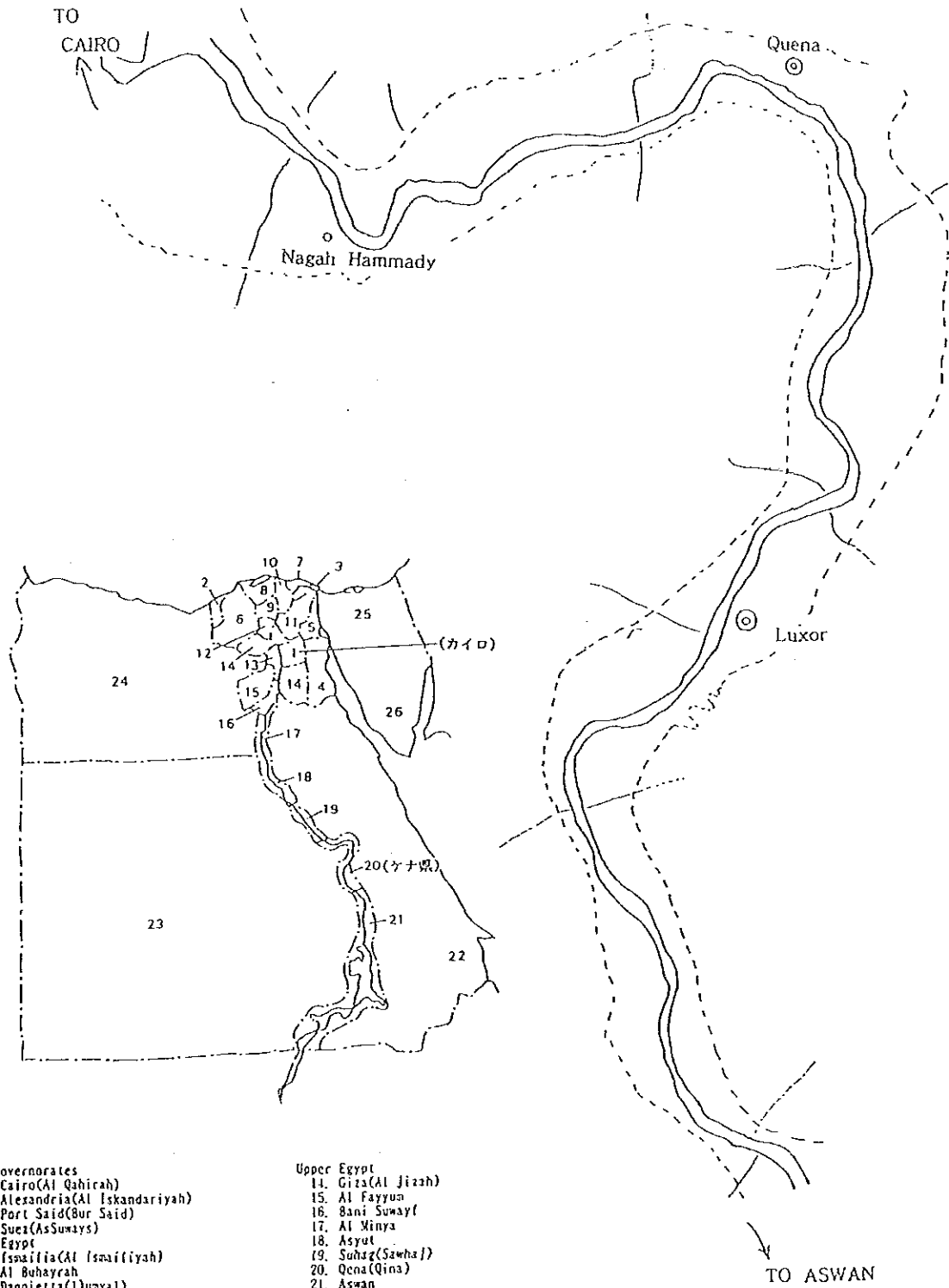
平成4年10月

国際協力事業団
医療協力部長
小早川 隆敏

Egypt



ケナ県地図



- City Governorates**
1. Cairo (Al Qahirah)
 2. Alexandria (Al Iskandariyah)
 3. Port Said (Bur Said)
 4. Suez (As Sways)
- Lower Egypt**
5. Ismailia (Al Ismailiyah)
 6. Al Buhayrah
 7. Darnietta (Iunyah)
 8. Kafrash Shaykh
 9. Al Gharbiyah
 10. Ad Daqahliyah
 11. Ash Sharqiyah
 12. Al Minuliyah
 13. Al Qalyubiyah

- Upper Egypt**
14. Giza (Al Jizah)
 15. Al Fayyum
 16. Bani Suwayf
 17. Al Minya
 18. Asyut
 19. Suhag (Sawha)
 20. Qena (Qina)
 21. Aswan
- Frontier Governorates**
22. Red Sea (Al Bahr al Ahoar)
 23. New Valley (Al Wadi al Jadid)
 24. Marsa Matruh
 25. North Sinai
 26. South Sinai

注) 25. 26の県境は資料入手できず。

目 次

序 文

地 図

1. 巡回指導調査団の派遣	1
1-1 調査団派遣の経緯と目的	1
1-2 調査団の構成	1
1-3 調査団日程表	2
1-4 主要面談者	3
2. 要約	5
3. プロジェクト実施状況及び問題点とその対策	7
3-1 総括	7
3-2 胎児診断技術分野	10
3-3 母子保健、家族計画分野	12
3-4 IEC分野	18
4. 資料	29
4-1 協議議事録	31

1. 巡回指導調査団の派遣

1-1 調査団派遣の経緯と目的

エジプトの人口は約5,000万人で人口増加率は約2.8%（1986年）であり、この水準で人口が増加すれば21世紀初めには人口が倍増し国家財政を逼迫し、国民により良い社会福祉サービスを提供し生活水準を向上させるための国家開発計画推進に障害となることが予想される。このため同国政府は1986年に新人口政策として人口増加率の引き下げ、人口分布の適正化を掲げ、その実現の手段として(1)農村地帯に重点を置いた家族計画の普及と改善、(2)助産婦及び乳児死亡率低減のための医療サービスの向上、(3)農村部の開発による都市移住の抑制に重点を置く施策実施を決定した。この実施に関連して、同国政府は我が国政府に対し母子保健・家族計画分野での協力を要請したものである。

上記を受けて当事業団は、1987年11月コンタクトミッションを派遣しエジプト側とのプロジェクト実施に係る協議を開始し、1988年2月には基礎調査団を派遣し人口家族計画分野での基礎調査と相手国との協議を行った。その後、1989年4月には事前調査団が派遣され、同年9月実施協議調査団が派遣されケナ県ナガハマディをモデル地域とする家族計画母子保健分野での協力実施が合意された。

1989年9月より開始された本プロジェクトは現在リーダーと家族計画・母子保健分野、啓蒙教育活動(IEC)分野及び業務調整の長期専門家が派遣されており、巡回検診活動を通じての家族計画・母子保健サービスの向上を目指している。また、併せてIECと超音波胎児診断セミナーも行っている。

本調査団は、プロジェクトの進捗状況及び係る問題点を把握し、当初合意された目的達成に向け円滑な協力実施が可能となるよう相手国側関係者と長期派遣専門家に対し必要な指導と助言を行うものである。

1-2 調査団の構成

団長	我妻 堯	総括	国立病院医療センター国際医療協力部長
団員	小林 洋子	母子保健	日本赤十字社幹部看護婦研修所専任教師
団員	前田 一雄	超音波診断	聖隷浜松病院産婦人科顧問
団員	小林 充尚	超音波診断	防衛医科大学校病院分娩部長
団員	平井 朗	IEC	国際協力事業団医療協力部特別嘱託

1-3 調査団日程表

月 日	日 程
1992年	
2/8 (土)	成田→フランクフルト移動
2/9 (日)	フランクフルト→カイロ移動 National Population Council.アインシャムス大学との打ち合わせ JICA カイロ事務所との打ち合わせ
2/10 (月)	在カイロ日本大使館 アインシャムス大学産婦人科超音波センター、胎児スペシャルケアセンター視察、国際超音波セミナー打ち合わせ
2/11 (火)	国際超音波セミナー開催
2/14 (金)	国際超音波セミナー終了、カイロ→アスワン移動
2/15 (土)	資料整理、マハラン教授との打ち合わせ
2/16 (日)	アスワン→ルクソール移動、マハラン教授、超音波センターとの協議 (IEC 部門供与機材及び今後の活動)
2/17 (月)	ルクソール→ケナ→ナガハマディ移動 ケナ県知事表敬、アルミニウム工場附属病院にて講演 ナガハマディ総合病院視察、アルミニウム工場と事務所建設に関する討議
2/18 (火)	相手国側と実施方針に関する懇談 ナガハマディ→ケナ→カイロ移動
2/19 (水)	JICA カイロ事務所打ち合わせ
2/20 (木)	議事録署名、IEC 活動視察、在カイロ日本大使館報告
2/21 (金)	カイロ→フランクフルト移動
2/22 (土)	フランクフルト→成田移動

1-4 主要面談者

National Population Council
Prof. Dr. Maher Maharan

Secretary General

アインシャムス大学
Dr. Amila Saleh

Director, 超音波ユニット

Mr. Abdel Raheem Nafe
Mr. Yahia El-Baha Nasany
Mrs. Aisha El-Bahawi
Mr. Mohamed Said Aly

ケナ県知事
ルクソール市長
チャンネル3 テレビディレクター
エイサート村長

ナガハマディ
Eng. Soliman Reda
Dr. Omar Lofty
Dr. Abdel Razak El-Senbesy

アルミニウム工場長
アルミニウム工場付属病院長
ナガハマディ病院長

在カイロ日本大使館
山田 中正
東 俊夫

駐エジプト日本国全権大使
一等書記官

JICA カイロ事務所
岩口 健二
小林 尚行
岡本 茂

事務所長
所 員
所 員

JICA 長期派遣専門家
水野 哲也
丹野かほる
野田 修治

リーダー／産婦人科
母子保健看護
業務調整

2. 要約

エジプト母子保健・家族計画プロジェクトは討議議事録（R/D）が1989年9月に署名され、協力活動は3名の長期派遣専門家の着任と共に同年11月に開始された。

超音波胎児診断技術の移転はアインシャムス大学産婦人科超音波センターにおいて実施されている。今回、当該分野の世界的権威である学者を招き国際研修セミナーがエジプト国内の医師への技術移転と技術の向上を目的として開催され成功に終わっているが、継続した形での協力が効果的であろう。供与された超音波診断機器は効果的に活用されており、保守管理の面でも問題はないようである。また、超音波以外の胎児診断技術の日本での研修が計画されている。

ナガハマディにおいて実施中の家族計画・母子保健活動は、使用される診療車両の到着が遅れ活動が開始されたのは1991年2月であったために活動状況を評価するには時期尚早であるが、活動が地元地域に受け入れられつつあり小児検診や地域における保健活動の希望も出ていることは良い前兆であろう。

IEC活動に関し、教材の作成はNPCのIEC部門で行われており、技術移転の推移は順調である。作成された教材を使用した現地でのIEC活動は、前述のように診療車両が届いたばかりで活動自体も始まってからさほど時間がたっていない状態であり、今後が期待される。

前述の状況を考慮すると、当初合意された協力期間では協力効果が出ないままに終了してしまうことになりかねないので、現状の協力範囲のままで協力期間の延長が必要と思われる。

派遣されている専門家が現地に適応できるようエジプト側の公私に渡る配慮と協力が確認された。

3. プロジェクト実施状況及び問題点とその対策

3-1 総括

エジプト母子保健・家族計画プロジェクトは1989年9月に実施協議調査団が派遣され討議議事録（R/D）が署名された。助産婦の丹野かほる女史とIEC専門家の横関祐見子女史、調整員の野田修治氏が着任したのは1989年11月であり、巡回診療車が現地に到着し診療が開始されたのは1991年2月、産婦人科医師の水谷チームリーダーが着任したのは1991年8月末であった。

胎児診断技術移転に関しエジプト側は当初からカイロのアインシャムス大学産婦人科の超音波センターにてエジプト各地の医師に超音波による胎児診断技術の移転を希望していた。これは、広義の母子保健の領域に属し、かつエジプト全土の医師の超音波診断技術の向上にも貢献するものとして評価できた。今回、産婦人科領域における当該技術の世界的権威である両教授を同行して欧米の学者と共に国際研修セミナーを開催したのもその一環である。診断技術は広義には超音波に限らず羊水穿刺その他の技術による染色体診断なども含まれており、エジプト側はプロジェクトの推移と共にこの分野の協力も希望している。

母子保健・家族計画のIEC普及活動の技術移転は横関専門家が当初から行っていたもので、国家人口審議会（NPC）にある啓蒙教育部門（IEC）で教育宣伝用のソフトを作成し、現地のナガハマディ周辺の村落においてIEC活動を行うものである。この活動に必要な専用車が現地に到着したのは1991年秋で、実際に活動が開始されたのは翌年2月である。

上記でもわかるように、プロジェクト活動は次の3カ所で実施されている。

- 1) アインシャムス大学産婦人科超音波センター（胎児特別ケアセンターと改称済）
- 2) NPCのIEC部門
- 3) ナガハマディのアルミニウム工場附属家族計画クリニック。現実にはプロジェクトの為に事務所が作られており、巡回診療車の基地にもなっている。

多くの技術移転プロジェクトにおいてはカウンターパートが明確でなかったり、居ても協力体制やC/Pの姿勢が不十分であったり、供与機材が十分に利用されないことが多く、JICAはこれらの点には極めて神経質になっている。

本プロジェクトのカウンターパートであるNational Population Council Secretary General Professor Maher Maharanは最初からプロジェクトの目的、場所等を明確に特定しており、政治的に影響力が大きく供与機材特に巡回診療車の陸揚げなどは極めて速やかに行われた。超音波センターにおける研修プログラムも日本側からの協力が行われていないにもかかわらず

ならず、昨年の計画打合せの際に既に相当程度実施されていた。現在の活動状況の詳細については今回同行した日本側専門家の報告を参照されたい。

日本から供与された超音波機器は十分に活用されており、今後の利用、維持、保守管理などの心配はないと思われる。

アルミニウム工場の工場長、Mr. SOLIMAN LEDA は本来プロジェクトと直接の関係はない立場にあるが、極めて協力的で日本側専門家の住居、プロジェクト事務所などは従業員の宿舎を提供してくれており、今後プロジェクト基盤整備費で建設予定の事務所についても敷地を提供するなど便宜を図ってくれている。夫人も協力的で専門家の私生活に便宜を図ってくれている。実際の業務に当たる若手のカウンターパートについては、自分の私費診療とプロジェクトとの関係などにおいて必ずしも問題が無いとは言えないが、熱心であり、今後ともやる気はあるというのが現在の状態である。

既に述べたように、エジプトの医師を対象にした超音波診断の研修コースは順調に行われており、このままの方針で進行させれば良いと思われる。日本の専門家による国際研修コースも今回成功を取めたので継続すべきであろう。

超音波以外の方法による胎児の診断法については、既に研修希望の医師を日本に受け入れる予定になっている。

当該協力内容が相手国にとり高度過ぎるという意見があるが、例えば同じエジプトのカイロ大学小児病院における小児循環器外科の技術移転に比較すれば、さほど高度の医学研究でも医療でもない。今後、この分野の協力要請が出てくる可能性があり、(メキシコからあつたと聞く) 母子保健の一環としてこの分野の協力の可能性も考慮してもよいと思う。特に、超音波センターの充実はエジプト側が強く希望しており、予算が許す範囲内で対処したい。

国家人口審議会における IEC 活動の推移は満足できる状態にある。1991年度分供与機材は未到着であるが、到着までに施設の補修等受入準備が必要である。今後の追加機材供与についても予算が許せば対応したい。

ナガハマディにおける母子保健・家族計画サービス活動は、上述のごとく巡回診療車によるサービス開始後わずか1年を経過したばかりで効果の判定には時期が早過ぎる。診療を受けに来る住民の数が次第に増えており、更に、エジプト側からは小児の検診を行う希望が出ており、そのための新車両は、安価であるため現地調達の希望が出されている。また、我が国の愛育班活動のような地域の住民を巻き込んだ地域保健活動を行いたいという希望も出ており、現在検討されている。いずれにしても、現在の段階ではプロジェクトはようやく始まったという状況である。

今後の対策方針として、このまま予定通り9月に終了させればプロジェクトが中途半端な

状態になることは避けられないので、現状の協力範囲のままでの単純延長が適当と判断している。その場合は、地域母子保健活動の組織形成に重点を置いたり、胎児診断以外の領域での協力等の修正も検討の可能性はあるが、結論は今後派遣される評価調査団に委ねたい。超音波研修センターの充実については、第3国研修プロジェクトにする可能性の検討を相手国側に示唆した。

3-2 胎児診断技術分野

アインシャムス大学超音波研修センターは同大学産婦人科内に設置されている。我が国から超音波研修センターに供与された超音波診断装置はアロカ SSD-680及び SSD-500であるが、いずれも、本センターを主宰するマハラン教授の超音波診断に関する長年の経験、習練、研究並びに超音波診断研修普及についての強い意欲と熱心な努力によって、100%活用されている。

2月19日に同センターを訪問したが、指導医師と研修医師が多数の患者を診断対象として活動しており、上記の2台の装置の他にも、アロカ SSD-250、同256、日立製超音波診断装置、ダイアソニックス製装置など、合計6台を越える電子スキャン超音波診断装置が同時に稼働しており、1日平均約25名の患者を検査し、さらに救急外来ではポータブル装置を用いて診察を行っており、患者1人あたり平均30分間の検査を行うとして全体では延べ750分、約12時間が必要であって、単に筆者が同センターを訪れた時だけでなく、つねに、供与装置2台を含む6台の装置をフルに活用していることが明らかである。

SSD-680診断装置ではカラー Doppler 及びパルス Doppler の機能が新しく加えられているが、これらの新しい機能もすでに活用されており、筆者の訪問時にも実際に絨毛癌患者の検査にカラー Doppler とパルス Doppler の検査が行われているのを見た。

以上のように、本超音波研修センターに供与された機材は100%に活用され、十分な効果を発揮しているが、アインシャムス大学産婦人科の分娩数は1年間18,000例で、超音波研修センターとして十分以上の検査対象がある。同センターの意向としては、超音波診断に従事するエジプト産婦人科医師の90%以上を本センターで研修させることを目標にしている。

2月11～14日の4日間にわたって、JICA とアインシャムス大学超音波研修センター共催により、国家人口計画審議会 (National Population Council) の施設において開催された超音波診断国際シンポジウムは、出生前診断の集中研修コースであり、筆者、小林教授、クーリャック教授 (ユーゴ)、チモール・トリッチュ教授 (米国) が、それぞれ豊富なスライドを用いて高度な超音波診断研修教育を行った。またチューパック教授 (ユーゴ) は出生前細胞遺伝診断を講演した。いずれも互いに知己の仲であり、緊密な連携のもとに無駄無く充実した4日間の研修コースを実施した。

本シンポジウムは、母子保健プロジェクト中の超音波研修計画に含まれるものであり、アインシャムス大学超音波研修センターにおける実地研修と相俟って大きな成果を上げた。本シンポジウムにおける研修内容は超音波診断の最高レベルに達するものであり、超音波教育担当者の育成にも適しており、本シンポジウム受講者は単に自己の診断能力を高めただけでなく、今後のエジプト各地の超音波研修教育担当者としての能力を獲得したものと考えられ

る。このような観点からしても今回同様のシンポジウムは反復実施の必要がある。

2月17日にナガハマディのアルミニウム工場の講堂において、現地の医師などを対象として母子保健と超音波診断に関する講演会が開催された。講師は、我妻、小林、前田の3名であったが、この様な講演会がナガハマディで開催されたのは今回が最初であり、大きな成果をおさめた。

我妻は日本の母子保健対策の歴史と成果、ことに戦後の本対策の発展と、新生児乳幼児死亡並びに妊産婦死亡の劇的な改善を講演して聴衆に感銘を与えた。小林は産婦人科における超音波の一般的診断、前田は胎児の先天奇形の超音波診断について、それぞれ豊富なスライドを用いて講演した。全体として2時間を越える講演会であったが、聴衆は終始熱心に聞き入っており、本講演会は非常に大きな成果をおさめた。本講演会の超音波診断の内容は一般的レベルであったが、その効果は大であり、今後さらにこの様な講演会をナガハマディのような地方的規模で反復実施することが母子保健計画上必要である。

(前田 雄)

3-3 母子保健・家族計画分野

I. はじめに

今回のエジプト家族計画・母子保健プロジェクト巡回指導調査では、母子保健の担当にあたり、以下のことを実施し、プロジェクトの進捗状況を把握するとともに丹野専門家と問題点及び今後のプロジェクトの展開について検討した。プロジェクトの現状及びそれぞれの検討内容について報告する。

プロジェクト展開地域であるナガハマディにおいて

1. エル・カソル村での移動検診車巡回医療活動の見学
2. 伝統的産婆を家庭訪問し、インタビュー
3. カウンターパート、アシスタントナースの業務見学
4. カウンターパート、アシスタントナースへのインタビュー
5. プロジェクト紹介ビデオ・写真などによるプロジェクトの進捗状況を把握

II. 現状

1. 移動検診車におけるの看護者の活動

移動検診車は現在、週1回の割合で5カ村を廻り検診活動を実施している。この検診車には丹野専門家のカウンターパート、アシスタントナース3名も同乗し活動している。看護場面では現在のところアシスタントナース3名で十分機能している。彼ら3名は受付、診察の介助、問診、破傷風予防接種、検診車巡回診療の準備・後かたづけ、診療記録整理、薬品・物品管理の業務を行っている。若い彼ら3名は、検診車内の整備、清潔を十分心がけ、また受診者への対応、検診台昇降時の安全確認も実施しており専門家の指導を受けることはない。彼ら3名が検診車内がより清潔になるようテーブルカバーのアイデアを出すなど意欲的に仕事をしている。土地柄が現在のポジションを奪われたくないという意識と現在の仕事が好きであるということが仕事に対し、熱心な態度をとらせていると思われる。

一方、丹野専門家のカウンターパートは前年11月にアルミニウム病院より配属され、約3カ月過ぎたところである。アシスタントナースの指導など今後の母子保健活動において指導的立場に立つが現在はまだ十分慣れていない様子である。しかし、母子保健において、保健指導、家庭訪問、伝統的産婆教育へのアイデアも持っており意欲的である。

2. 伝統的産婆（ダヤ）への教育

対象村落での分娩介助は90%以上がダヤにより行われ、村人の信頼も厚く、今後の家族計画の普及においても重要な立場にある。しかし、識字率も低く、衛生知識、家族計

画についての知識はほとんどない。ダヤへの教育にあたり、彼らとの信頼関係を築くため、検診車を訪れるダヤには車内を見学させることにより分娩介助という彼らの職業にかかわる活動ではないことを理解させている。このことにより家族、親戚などの妊婦を検診車に連れて来るダヤも現れている。

教育の対象となるダヤは現在22名である。ダヤの教育については、現在計画中であり、時期、場所、どのように行うかは未定である。

3. 小児検診活動について

小児検診活動の開始を計画中である。この場合の看護婦、アシスタントナースの役割については保健指導を中心としたものにしたという意向である。

4. 移動検診車活動での受診者の反応

移動検診車は週1回1カ村を巡回している。私が検診車の活動を見学した日はエル・カソル村の巡回日であった。検診車の到着が多少遅れているようであったが受診に訪れていた17名ほどの婦人たちは、いくつかのグループごとに検診車の到着を互いに話をしながら待っていた。予定の時間が少し過ぎてもあわてることなく、ひたすら待っている。検診車の活動の場所にはビデオモニターが1台映像を流していたが、その前には母親について来た子供たちだけが見入っていた。モニターそのものなのか、映像の物珍しさなのか判断しかねるが、ビデオモニターなどの視聴覚機材にたいする子どもたちの関心はかなり高いと思われた。本来、家族計画の啓蒙は家族計画に直接かかわる母親・父親が対象であるが、ビデオモニターにおいて、エル・カソル村では直接の対象よりも子供たちに人気があったようである。

また、家族計画に関するカウンセリングは現在、教育に関することとしてケナ県で行われている家族計画カウンセリングのコースを修了した IEC カウンターパートが担当していた。

III. 問題点及び検討内容

1. アシスタントナースについて

現在、検診車の活動に従事しているアシスタントナース3名は若く、未婚女性である。ナガハマディという土地柄女性は若くして結婚し、家庭に入ることが普通の生活である。このような状況から有能であり、仕事に対する意欲がある若いアシスタントナース3名は、いつ離職するかも定かではない。また、対象村落の拡大や巡回数の増加など移動検診車の活動をさらに拡大していくためにも、検診車の活動に従事する有能な看

護人材の確保が今後の問題である。

この問題に関して、今後の対策を以下のように検討した。

- 1) 現在のアシスタントナースに知事レベルのアシスタントナースの資格が得られるようにし、さらに仕事に意欲を持たせる。
- 2) ケナ県で行われている家族計画指導員看護コースに参加させ将来的に保健指導ができるようにする。
- 3) 1～2カ月後、アシスタントナースの短期トレーニングを開始する。今回は、移動検診車とアルミニウム病院での活動人材数を考えると対象を前回7名より増加し、10～12名を予定する。教育カリキュラムについては短期アシスタントナーストレーニング（2カ月コース）のカリキュラムは既に準備が完了している。

2. カウンターパートについて

看護のカウンターパート、ソアード女史は看護婦のライセンスを持ち、プロジェクトに参加し3カ月である。ソアード女史には、将来的にアシスタントナースの教育指導の役割をはじめとし、看護分野における指導的役割が期待される。しかし、ソアード女史が看護婦としてプロジェクトに参加し、検診活動での保健指導や家庭訪問、伝統的産婆の教育に意欲を持っているものの、プロジェクトへのかかわりが短いことから、現在の業務に慣れておらず自分の役割が十分自覚できていないこと、土地柄、既婚で子供をもつ主婦であるソアード女史の就業継続には、夫の理解が大きくかかわることが問題として考えられた。

この問題に関して、以下の対策を検討した。

- 1) 1～2カ月後より開始を予定しているアシスタントナースの短期トレーニングに専門家とともに参加し、アシスタントナースの教育についてソアード女史を同時に訓練してゆく。
- 2) 検診車の活動において個別的な妊婦の保健指導を担当する。
- 3) ソアード女史が関心を持つ家庭訪問について、アシスタントナースのトレーニング終了後から現在、週1回、1カ村の家庭訪問を拡大して行く。
- 4) 伝統的産婆の教育テキスト作成にかかわる。
- 5) 将来的にソアード女史のアシスタントとして看護婦1名を活動に加える。

3. 伝統的産婆の教育について

現在、対象村落における分娩の90%以上にグヤ（伝統的産婆）がかかわっている。妊婦・産婦・褥婦・新生児の健康を守り、本プロジェクトの目的である家族計画を普及さ

せるためにも村人とのかかわりが深く、信頼が厚く、そして各家庭を把握しているダヤの協力が不可欠であると考え。ダヤとの関係もとれ始めている現在、ダヤへの教育(衛生知識、分娩介助物品の取扱い方、育児、異常時の対応など)は識字率が低いことからテキストの工夫、土地の習慣に関する知識を活用することが有効と考えられる。

ダヤの教育に関して、以下のことを検討した。

1) ねらい

- ① 妊娠、分娩、産褥、新生児の異常がわかる
- ② より清潔な分娩介助ができる
- ③ 家族計画の指導ができる(将来的に)

以上をねらいとし、ダヤの教育を実施することにより、ダヤがかかわる妊娠や分娩、産褥、育児に困難を感じた時にはカウンターパートや移動検診車の医師に相談できる、問題のある妊婦、産婦、褥婦、新生児を移動検診車や病院に送ることができるようにする。

- 2) 1)のねらいに基づきテキストを工夫する。これは、絵、図による工夫が考えられるが、既存のテキストを参考にすると共に土地の状況を知るカウンターパート、ソアード女史のアイデアが有効となると考えられる。
- 3) ダヤ教育の内容や方法、テキスト作りについて短期専門家の協力を得る。(できれば英語で)
- 4) アラビア語に翻訳しアラビア語のテキストを作る。

4. 小児科検診時の看護の役割について

予防医学的視点に立っての小児科検診が開始される予定であるが、小児科検診時の看護の役割を以下のように検討した。

- 1) 診察の介助を行う
- 2) 保健指導を行う(清潔について、母乳栄養についてなど)
- 3) 受診者の背景より移動検診車への受診を勧め、家族計画との関連を持たせる

5. IECの教育活動と看護の教育機能の関係について

家族計画に関する指導は家族計画指導のカウンセリングコースを修了したIECのカウンターパートが行っている。移動検診車を訪れる婦人たちは、家族計画の知識を得るとともに妊娠し、健康な子を生もうとしている妊婦もいる。これらの対象には看護の専門知識をもった看護スタッフが適切な保健指導を行うことが必要と考える。

6. 移動検診車の活動に関するマニュアルについて

移動検診車の活動が開始し、1年を経過した。巡回検診の対象村落も5カ村と順調な活動が行われている。今後対象村落の拡大や現地スタッフでの活動にそなえて移動検診車活動に関するマニュアル作りが計画されている。マニュアルについて看護に関しては以下の内容を検討した。

1) アシスタントナースの看護業務手順（アラビア語、英語）

IV. まとめ、感想

今回のプロジェクト調査団に参加して、異文化の中で順調な移動検診車の活動は予想以上であった。順調な活動の原動力は現地の人々とプロジェクトチームとの信頼関係ではないだろうか。特に、若い3名のアシスタントナースが短期間の訓練にもかかわらず、生き生きと、しかもテキパキと仕事をしていることに教育の効果と信頼関係の深さを感じた。今後の家族計画の知識の普及と地域の健康レベルの向上のために基本的知識を身につけたヘルスワーカーとして若いアシスタントナースの養成が必要であり、彼女たちの活躍が期待される。

本プロジェクトも後、約7カ月。現地スタッフが自ら活動を継続して行くために看護分野においては、その間に実施しなければならない計画がたくさんあり、短期専門家の協力があつたとしても、残された期間に計画すべてを実施することは困難と思われる。中でも、ダヤの教育トレーニングは、現在計画の段階であり、実施、評価に至っては、もうしばらく時間が必要である。

ここで、本プロジェクトにおけるダヤの教育トレーニングの位置付けを考えてみると最も効果的に家族計画の知識を各村々に普及するにあたってはダヤの協力が不可欠であると考える。それは、彼女らが分娩の介助を通して各家庭の状況を把握しており、さらに村人とのかかわりが深く、信頼も厚いからである。家族計画の知識もダヤを介しての対応がより村人に受け入れられやすい。また、清潔な分娩介助や異常がわかりカウンターパートへの相談、病院への移送が行われることにより将来的に母体死亡、新生児死亡も減少するものとする。必要期間との関係では、ダヤの教育が最も期間を要すると思われる。本プロジェクトの期間から考えると、ダヤの教育に関する援助は今後も家族計画の知識の普及と地域の健康レベルを向上させるためにも存続させたい活動内容である。

次に、活動の中心的存在となる看護のカウンターパートへの訓練は今後の活動に大きく影響すると思われる。幸い、看護のカウンターパートはプロジェクトにおいて、自分のしたい活動内容などを持っており、今後の訓練次第ではプロジェクトの活動に大きく貢献するものと思われる。同時に今後の彼女の活動を助けるためにアシスタントとして看護婦1

名が必要である。(エジプトでは看護婦不足の状況であるが…)

また、教育活動において、実際の移動検診車の活動では家族計画の指導担当は家族計画のカウンセリングコースを修了した IEC のカウンターパートであった。移動検診車にはこれから子どもを生もうとする妊婦も訪れる。それぞれの適正と看護の教育機能を考えると、これらの対象には看護の専門知識をもった看護スタッフが適切な保健指導を行うことができると考える。加えて、看護のカウンターパートも保健指導に対しての意欲があることから移動検診車においては、妊婦を対象に保健指導を担当し、IEC の家族計画カウンセリングとともにより強力な移動検診車の保健指導体制を作ることができるのではないだろうか。このことによって、妊婦の健康の維持と健康な子どもの出生につながると考える。

最後に、エル・カソル村での移動検診車の活動を見学した際、母親について来た子どもたちがビデオモニターを見入っていた。本プロジェクトの目的、対象、活動範囲からははずれるが、子どもたちがビデオに興味を示していること、土地柄、若くして母親、父親になることを考えると家族計画の直接の対象者ではないが将来に向けてなんらかの形で彼らに家族計画に関心を持たせて行くことも必要ではないかと思う。その際、午前、午後二部制の学校があり、それとの関係もあるが簡単な文字・数字を読むこと、書くことという生活に必要な基礎的な知識や健康レベルを向上させる衛生知識など、とともに家族計画に関心を持たせられればと考える。

以上、エジプト家族計画・母子保健プロジェクトの母子保健に関し、巡回指導調査によるプロジェクトの現状と問題点についての検討内容及び感想を報告する。

(小林洋子)

3-4 情報・教育・コミュニケーション (IEC) 分野

A. 現状及び1992年度活動目標 (概要)

昨年の計画打合せ調査団によって確認された IEC 活動の目標 (母子保健検診車活動のバックアップ) は順調に果たされつつある。

パイロットプロジェクト (ナガハマディ) サイトで現在検診車が活動している 5 カ村全てで支援活動を展開、家族計画・母子保健の知識普及を行い (Knowledge)、村人の態度変容を促して (Attitude)いるが、その次の段階 (Practice)にはまだ時間を要する様である。(K.A.P.)

そこで、IEC 活動の領域を、昨年策定した 2 領域、即ち――

- ① 老若男女を含めた村人全体を対象に、移動検診車の機能とその背後にある母子保健・家族計画の認識と重要性を訴える。
- ② 医師が妊婦の検診及び母子保健・家族計画の相談を行った後、「それぞれの母親が実際に何をどの様にすればいいか」を示す具体的な手段・方法について解説する教材を提供する。

――に加えて

- ③ オピニオンリーダーとしての宗教者・教師・その他の知識層への集中的働きかけ。
- ④ 家の中の婦人への「家庭訪問」による、検診車来訪促進のための積極的働きかけ――を設定、活動を更に展開する。

B. メディアの選定

昨年に引き続き、ビデオ教材の提示・リマインダー (パンフ類) の配布・フリップ／チャートの提示等による教育広報活動、スローガン入りカレンダーやプロジェクトのシンボルマーク入りキーホルダー等の小物の配布による広報宣伝活動を展開している。

特に1990年度供与機材の A Vバンは1991年10月にナガハマディに到着し、11月より検診車の支援活動を開始したが、宣伝カーとしての音声伝播機能及び30吋車載 TVによるビデオ提示機能は有効に利用されている。従って、今後もビデオ教材作成を主眼に活動を継続する。

一方 (特に女性の) 識字率の低さから、やや有効性が低いと判断されてきた印刷教材 (の配布) であるが、村の婦人達の間からは「自分は読めなくても夫に読んでもらうので字の書いてある方が良い」との声が続出した。対象となるべき人々の好みを考え、又 (婦人の受診や避妊の) 決定権を握っている夫達を巻き込むことも考慮して、今後のパンフレット類は絵を使いつつ字も重視して作成する。尚、その為の簡易印刷機の導入を考慮する。

C. 教材作成機材の配置・教材の制作と利用の体制

昨年の方針「複雑な教材・全国に普遍的な教材はカイロ NPC が、或はその協力を得て制作し、簡単な教材・地域密着型の教材はできるだけ多くナガハマディで制作する」は継続しており、その基本線に従って1991年度機材も供与される。以下、サイト別に機材と活動を詳述する。

① ナガハマディの機材

教材作成用機材：1989年度携行機材及び1990年度供与機材として供与された家庭用ビデオカメラ、ビデオデッキ、写真機、コピー機、ラミネイティングマシン、等々を用いて家族計画・母子保健のための教材を作成している。

AVバン：1990年度供与機材であるAVバン（VTR、モニターTV及びPAシステムを装備）は1991年10月にナガハマディに到着し、11月より検診車の支援活動を行っている。

今後の機材：1991年度供与機材としてS-VHS業務用編集機が到着予定。これによりナガハマディにおけるビデオ教材作成の効率化とC/Pの技能の向上が図れるものと期待される。

現在、プロジェクト内部で印刷するパンフレット等はコピーマシンを使って作成しているが、将来的な管理と継続性（機材のメンテナンスと経済性）を考慮すると、これは望ましい方法とは言い難い。従って、1992年度供与機材として簡易印刷機（ステンシルカッター、謄写版輪転機、等々）の現地調達が望まれる。

② ナガハマディの活動

a. AVバンによる検診車支援活動

ア) 検診車巡回の前日（午後～夕方）に村の男性を対象に行う活動。

娯楽番組と家族計画番組を上映し、家族計画と妊産婦健診への理解を深める。

男達の理解を通して、婦人の検診車来訪を促すことを目的とする。

イ) 検診車巡回当日の早朝、その村の中を廻りながら車載PAシステムで「今日は検診車が来る」こと等を告知する、宣伝カー的活動。

ウ) 妊産婦健診と家族計画サービスの検診車活動の最中に、待合室で女性を対象に母子保健・家族計画のビデオ番組を上映する。

※ア) はドライバー 1名と男性 IEC スタッフ 1名（間もなくアサインされる予定）によって稼動される。

※イ) はドライバー 1名によって稼動されている。放送内容は予めカセットテープに録音したメッセージ。現在検診車が巡回中の5カ村において実施している。

※ウ) はドライバー 1名と女性 IEC スタッフ 1名によって稼動されている。現在

検診車が巡回中の5カ村において実施している。(但し、物理的条件でAVバンが健診会場に入れない村では、従来通りビデオデッキとモニターTVを検診車で運び込んで実施している。)

番組内容は 1) 娯楽番組の合間に FP 及び ORT のスポットを挿み込んだもの。

娯楽番組とは イ) 全くの娯楽物

ロ) 家族計画を題材にしたドラマ

ハ) 家族計画をテーマのマペットショー 等を含む。

2) 女性 IEC スタッフが解説しながら見せる母子保健ビデオ番組。

JOICEF がタイに取材・制作したもので、妊産婦の産前産後の生活や赤ちゃんの世話まで総合的に紹介した教材。長さ約20分。

3) 記録ビデオ。

その村で行った説明会や、今迄の活動の様子などを見せる。身近な顔の登場で、プロジェクト活動への関心を喚起する。

b. 教材制作

ア) ビデオ教材：検診車の家族計画サービスを受ける女性の為のカウンセリング用に作成された。

1) 定期健診の奨め

- ・ 病院での産婦人科の活動
- ・ 検診車の紹介

—未制作—

検診車の紹介「母と子の健康の為に集まれ」

2) 家族計画

- ・ IUD
- ・ ピル

「IUDプリカウンセリング」

「IUDポストカウンセリング」

「ピルプリカウンセリング」

「ピルポストカウンセリング」

「避妊注射プリカウンセリング」

「避妊注射ポストカウンセリング」

3) 母親と赤ちゃんの健康

- ・ 妊娠初期の注意
- ・ 妊娠中の生活
- ・ 母乳の奨め
- ・ 赤ちゃんの沐浴

—未制作—

—未制作—

—制作中—

—未制作—

4) 子供の健康

- ・ 子防注射
- ・ ORT
- ・ 住血吸虫

「麻疹と迷信」

「ORTの飲ませ方」

—未制作—

既に制作済の教材も、新機材導入に伴う制作能力の向上に合わせて改新される。

イ) 配布用パンフレット：家族計画サービスを受けた女性に対するリマインダーとしてのパンフレットが作成された。昨年、活動計画作成時には、識字率の低いことからパンフレットには重点を置かぬこととした。しかし、その後の聞き取り調査で、前述のようにパンフレットの需要が大きいことが判明したので、絵を使ったパンフを中心に作成、配布されている。

・「IUD」

・「ピル」

・「妊娠中の注意」

c. 教育及び広報宣伝用「小物」の作成

村人が検診車を訪れることを促すメッセージを組み入れた1992年版カレンダーが作成された。このカレンダーは主に検診車巡回中の村の住民を対象として、家族計画と検診車への理解を深めることを目的としている。

この他にプロジェクトロゴの入ったキイホルダー、コースター等を作り、プロジェクトの存在を広報宣伝するのに用いられている。

d. 家族計画セミナーの開催

次の2つのグループを対象に2種類の家族計画セミナーが計画実施された。

ア) 村のオピニオンリーダー（宗教者、教師等の知識層）対象の2日間セミナー

実施例 イマーム（宗教者）の為の家族計画セミナー（パイロット）

1) 目的：④ 村人に影響力の強いイマームに母子保健・家族計画に好意的になってもらう。

① プロジェクトへの理解を促す。

2) 方法：家族計画セミナーを開催し、母子保健・家族計画に関する医学的、社会的、宗教的に正しい知識を与える。

3) 日時：1991年9月3日、4日

4) 場所：エルサイヤド村々長のマンガラ（執務室）

5) 参加者：検診車巡回中の5カ村のイマーム15名

6) 講師：シェク・モハメドアブラム師（ナガハマディモスクの指導的導師）

モハメド・ハワリー氏（プロジェクトの産婦人科医師）

オスマン氏（政府広報局）

7) 内容：④ 妊娠・出産についての医学的基礎知識

① 母性保護と子供の健康の為の家族計画の重要性

③ イスラムと家族計画の整合性

① 社会的問題としての家族計画（人口爆発等）

8) 配布教材等：プロジェクト紹介パンフレット

家族計画に対するイスラム的考え方（政府広報局作成）

子供とイスラム（UNICEF 作成）

プロジェクトバッグ、キイホルダー

かつては「家族計画」という言葉を出しただけで発砲されたこともあるという位保守的な地域であるが、このセミナーの結果、イマーム達の家族計画に対する理解が深まり、また地域にプロジェクトへの肯定的認識が広まった。

セミナーは今後更に継続し、他の知識層も含め3回の実施が計画されている。

イ) 村の一般男性対象のセミナー

ア)より平易な内容(①②③のみ)とするもの。プリテストとして11月にアルミ工場内の非熟練労働者20名を対象に行われた。この経験を元に、検診車巡回中の村での開催が計画されている。

e. カウンセリング

検診車でサービスのより充実させるべくカウンセリングサービスが行われている。医師の検診を受ける前のプリカウンセリング、受けた後のポストカウンセリングを「家族計画」「妊産婦検診」「婦人科」の3分野につき手順マニュアルを作成し、実施されている。またマニュアルの改訂も随時行われている。

担当C/Pの Ms. Saha はカイロのアインシャムス大学のRCT(Regional Centre for Training)による「家族計画カウンセラー講座(3週間)」を受講し、カウンセリング手法を学んだ。

f. 家庭訪問

村の女性を対象に、検診車に来る人々の中でも特に妊産婦健診と家族計画サービスを受ける為の来訪者を増加させることを目的に始められた。

現在、モデル村のエルサイヤド村で、週1回の検診車巡回稼働時間中に行われている。Mrs. Sowad(Nursing Supervisor)と Mrs. Samia(IEC)が家庭訪問を行う中で妊産婦と家族計画サービスを希望する人には健診割引招待券を配布し、検診車への来訪を促進。現在の回収率は8割以上と非常に高く相当の効果が上がっているといえる。

従って今後更に、検診車が巡回している他の村でも家庭訪問が開始される。

g. アシスタントナース教育用教材の作成

検診車要員であるアシスタントナース養成コースの為の教材

ア) 今迄に作成されたもの (前回のコースで使用)

- 1) ベッドメイキング
- 2) 筋肉注射
- 3) 救急法

※写真を使った手順説明のフリップ

イ) 今後作成予定のもの (次回のコースで使用)

- 1) 看護技術の基礎 (例: ベッドメイキング等)
- 2) 検診車稼動の手順 (例: オートクレーブの使用法等)

※丹野専門家と Mrs. Sowad のデモンストレーションを写真とビデオを使いマニュアル化する。

③ カイロ NPC、また他の国内機関、国際機関との協力

a. 教材の制作

IEC 活動の中で中心的に使われているビデオ教材は、主にナガハマディのプロジェクト・サイトで制作されている。しかし、より高度な編集技術を必要とするもの、コンピュータグラフィックスを使用するもの、又より全国的な普遍性のあるものに関しては、NPC の IEC 部の技術協力を得る必要がある。

今後 R/D 終了時までには、NPC では今年度供与機材の OJT も兼ねて、下記の 2 本のビデオ教材が制作されねばならない。

ア) -Care during pregnancy- コンピュータグラフィックス動画を使用

イ) -Project introduction documentary- 本格的ドキュメンタリー番組

b. 教材の配給

ナガハマディで使用するのに適切と思われるビデオ教材及び印刷教材 (配布用パンフレット等、フリップ・チャート類、ポスター等) を NPC を通して下記の様に入手、利用されている。

今後引き続き、国内で FP / MCH 関連教材を作成している機関と提携し、教材の拡充が図られねばならない。(特に最新版 TV スポット - 家族計画・ORT、他 FP 関連番組)

ア) ビデオ教材 ・ NPC (UNESCO 共同制作による FP マペットショウ等々)
・ エジプト TV (国営テレビがプロジェクトを取材したもの等々)
・ 政府広報局 (有名女優主演の家族計画ドラマ風スポット等々)

イ) 印刷教材 ・ UNICEF
・ UNFPA
・ Child Survival Project

- ・ State Information Service (政府広報局)
- ・ Ministry of Health

c. プロジェクトの広報

広報活動は NPC を通して行われている。

ア) カイロ NPC ショールーム：

プロジェクトを紹介する写真パネル、プロジェクトの成果品であるビデオ番組等を常設展示する予定であるが、当方が多くの素材を既に提供しているにも拘らずエジプト国側の工事の遅れから未だに公式にオープンしておらず、大至急の完工と公開が望まれる。

イ) エジプト TV (国営テレビ局)：

NPC スタッフが撮影したものを TV 局に送って、ニュースで放映されたこと 10 回。TV 局がナガハマディのプロジェクトサイトを取材、放送したこと 2 回。

プロジェクトの主旨からすれば、今後 NPC とプロジェクトの IEC スタッフが制作するプロジェクト紹介番組を放映させることを第 1 の目標として、ナガハマディの成果を全国に知らせ、広めることが必要である。

d. マンパワートレーニング

ア) アインシャムス大学 RCT (家族計画トレーニングセンター)：

全国の医療従事者、ソーシャルワーカーの為のトレーニングコースである。スキル工場と、情報のアップデートのためプロジェクトスタッフが参加する。現在迄に、Ms. Saha が家族計画カウンセラー講座を受講した。

イ) NPC での IEC インハウストレーニング：

ナガハマディの IEC スタッフのスキル向上の為、日本研修帰りの NPC アブハミド氏を講師として行う。現在迄に Mrs. Samia を対象に実施しているが、今後も新機材導入に合わせて継続的に実施されなければならない。

④ NPC カイロ IEC 部の機材

1991年度供与機材が到着次第、1990年度供与機材等と組合せての据付けを開始するが(レイアウト等は別添資料参照)、それ以前に NPC による編集室兼機材室とコンピュータ室とのパーティション工事及び内装工事が「絶対に」終了しなければならない。具体的には1992年4月中に必ず完工することが必須である。

- ビデオ編集室(兼カメラ VTR 機材室)とコンピュータ室を分ける。コンピュータ室への出入りの為、新たにドアを設置する。
- 二つの部屋を分ける壁は木製で、埃を遮断するよう天井迄届く高さ。中段の一部にガラス窓とカーテンを設置、必要に応じてコミュニケーションを確保する。

- c. コンピュータ室に VTR とモニター 1 台ずつ設置してマック PC と接続する。さらにこの VTR と PC は編集室に設置する SEG 及びリモコンユニット等と結び編集室側から映像取り込み・リモコン操作が出来る様にする。
- d. 一階の会議場及び特設スタジオ（元のガマル氏の部屋）でカメラ 2 台のスイッチング撮影が出来るよう、カメラケーブル（必要な尺数と数量を至急調査し、接続用プラグ等と共に、専門家携行機材等の大至急に供与出来る手段を以て1991年度供与機材と同様に到着するよう購送する）配線、及び壁の工事を行う。
- e. 編集室内は防塵の為カーペット敷きとし、土足厳禁（スリッパに履替え）、禁煙とする。
- f. 余り多くの人が入って来ないよう、担当スタッフ以外は通常立入禁止。NPC の見学者の入場も制限する。
- g. 機材ロッカーを設置し、機材備品はその中に整理整頓して保管する。
- h. テープロッカーを設置し、ニューテープ、素材テープ、編集テープ、マスター・テープ等々を整理整頓して保管する。
- i. 防塵の為、窓は締切とし目張りをする。
- j. 機材には布のカバーをかけて保護する。
- k. カイロにある JVC 代理店と「保守管理サービス契約」を結び、メンテナンス及び必要に応じて修理を委託する。
- l. NPC で日常的に行うセルフメンテナンスの明示（フリップ）。アブハミッド氏を中心に、据付け専門家等の協力も得て実施する。
- m. 録音室は天井に吸音材を入れて反響を減らす。また編集室との間の配線工事を行う。

⑤ NPC カイロ IEC 部のマンパワー

- a. エジプト側 C/P は下記の如き配置となる。
 - ・技術部：ディレクター : アブハミッド氏
 - アシスタントディレクター : *
 - アシスタントディレクター : ハサーン氏
 - カメラマン（フルタイム） : *
 - カメラマン（パートタイム） : * *は新しく雇用する。
 - ・スク립トライター及びナレーター：必要のある時に外注する。
 - ・演出：ガマル氏若しくは外部人材と契約。将来的にはアブハミッド氏も担当。
- b. 日本側専門家の派遣は下記の如く行われねばならない。
 - ・1992年5月以降：91年度機材到着に併せて据付け及び基本的保守操作の指導。

任期（実質）最低2週間。出来れば①カイロ②ナガハマディ両方をみてもらいたい。

- ・1992年6月以降：上記専門家の派遣後、A/Bロール編集、2カメ・スイッチング撮影等の実技から、機材の精密な調整・保守作業まで指導出来る「制作技術」の専門家。カイロ、ナガハマディの両方を（場合によってはC/Pを1カ所に集めてでも）指導。任期は3カ月が望ましいが、リクルート面で不可能な場合は「制作技術」専門家1～2カ月と「制作」専門家1～2カ月のクロスオーバー的組合せで計3カ月以上が必須であろう。

D. 配慮すべき点、問題点と対処方針

- ① 1991年度供与機材の到着が当初予定に比して相当遅れている。協力期間内に技術移転を終了させる為には、C-④の通りエジプト側の協力（内装工事、等々）が実施される必要がある。と同時に短期専門家派遣がC-⑤-bの通り実施されることも必須である。
- ② NPCのアブハミッド氏が沖繩国際センターの（ビデオ制作）集団研修から帰国したので、教材作成の遅れは今後逐次改善されるものと思われる。しかし、計画打合せ調査団でも指摘された様に、カウンターパート（C/P）研修枠は1991年度末迄医師のみによって占められてきた。ナガハマディのプロジェクト現地業務の円滑な遂行を考えるならば母子保健（看護）C/Pを筆頭に、IEC C/Pのサミア氏、実際に検診車業務を行う産婦人科医師C/Pらの研修員の受入が必須である。
- ③ 今回会議の席上、口頭ではあるが、NPCより「ベータカムカメラ」の供与に関し非常に強い要請がなされた。その理由は—
 - a. エジプト国内において、家族計画の知識の普及率は95%を超えている。しかし、それが態度変容から行動には未だ結びついていない。そのギャップを埋める為にはより強力なメディアによるIEC活動の展開が必要である。
 - b. 現在、同国内のテレビ受像機普及率は非常に高く、ほぼ全戸にあって、実質的にテレビ視聴可能なのは、上エジプトの村落部でもほぼ全員である。

従って、TVメディアを通しての家族計画・母子保健の広報普及活動は非常に有効な手段である。
 - c. 上エジプト地方ローカルの題材や映像がテレビ取材・放送される機会は今迄非常に少なかった。従って、当地の住民にとって身近な土地や人々がテレビ放送に登場すれば、強い興味・関心を惹起する。そこで、ケナ県地域ローカル放送の時間帯を

利用し、地域性豊かなプロジェクト関連番組を放送すれば、今後の検診車巡回村拡大の為にも有効である。

d. NPC 所有の VTR (S-VHS) は「放送規格」をみたしておらず、テレビ局側は放送の為には「ベータカム」VTR の使用を求めている。現状は NPC が宿泊・トランスポート等を提供し、テレビ局のカメラクルーに取材してもらっている。しかし局側もカメラが不足しているので、取材がキャンセルされる例も多い。そこで、NPC に対し日本から「ベータカムカメラ」を供与し、それを利用することは、上記 a～c の達成の為に有効である。

以上が NPC 側の主張である。これらの理由は、ナガハマディのプロジェクトサイトを中心に見ると、合意済の協力の範囲をやや越えるものの様に見受けられる。しかしながら、第 1 に C-③-b、C-③-c の実績から、第 2 に「エジプト国 FP / MCH 関連 TV 番組企画ボード」の議長をマハラン教授が務め、NPC の IEC 部長ガマル氏が委員の一人であることから、放送局との連携の必要性・有効性は十分に理解出来るものである。エジプト国側に機材の保守管理の問題もあるので、長期的な展望（パイロット・プロジェクト終了後のエジプト国による全国展開）も考え合せれば、「ベータカム」導入の意義は大いに見出せる。

現在のところ先方の要請は「ベータカム（カメラ・VTR 一体型）カメラ」1 台であるが、NPC の側がテレビ局に対して優位を保つこと、自前で映像を管理することを考えれば更に加えて「ベータカム据置型 VTR」の導入から「ベータカム編集システム」の導入まで、今後の課題として検討する必要がある。

(平井 朗)

このたびの調査団に加えていただき、カイロにおける国際超音波シンポジウムやアインシャムス大学周産期医学センターと National Population Council (NPC) 及び地方病院の現地の医学的状況とくに超音波診断法を含めた産婦人科領域における現況の体験印象を簡略に記させていただきます。

1. 我が国からの援助の主な受益者で、アインシャムス大学産婦人科主任教授であると同時に National Population Council (NPC) の責任者でもある Prof.Mahran は、よい意味で非常に精力的で、先進的アイデアを持ち、妊産婦・胎児管理や人口問題にも高い見識を持っていると同時に産婦人科領域、特によりよき周産期母子管理にきわめて強い意欲を示しております。その必然的延長線上にある一つのターゲットが超音波診断法であり、形態的にも機能的にも健全な次世代の子孫を残すべく出生前診断の最大の目玉としてきわめて活

発にその研究活動をしており、その周辺関連診断として遺伝細胞的診断もふくめた多方面にわたる出生前母児管理にも手をひろげようとしているようです。出生前母児管理において中心的役割を果たすものは超音波診断法であることは広く認められております。しっかりした母児の超音波診断にはどうしても信頼できるよい診断装置が不可欠ですが、この点で我が国の援助による超音波診断装置及び周辺装置類や関連装置が大活躍しており、100%以上の利用・活動状況にあると思われま。このセンターにおける超音波診断の日常活動や多数の医師や技師の養成の他に、今回のような国際シンポジウム（我々とユーゴスラビア、米国の医師が参加）や各種トレーニングコースを Dr. Mahran 主催で開き、エジプト各地からの派遣医師の最新トレーニングをするリフレッシュコースも適時開催して、ひろくエジプト国内の医師の超音波診断に対する現況認識にも配慮している点は立派だと思います。このアインシャムス大学の周産期医学センターのレベルは世界的レベルにあり、エジプト国内啓蒙の最大の旗手としてもそれを maintain していくべきであると思いますが、地方病院それも…地方の中央（総合）病院、（ナガハマディ総合病院）と言われる病院でも設備がまったく貧弱であり、中央との格差が極めて大きい点は印象的でした。一方では確かに最新レベルの設備も必要であると同時に、末端レベルでの一般病院・診療所のある程度以上の設備も決しておろそかにすべきでないとの強烈な印象を得ました。この病院の医師達は医学知識、最新知識はよく知っておりますが、設備が追い付いていないとの印象でした。従って、この末端の施設ではこの意味であまりにも高度高価で保守も難しい装置を設備しても当然アインシャムス大学のようなフル活動は期待出来ないと思われま。援助のむずかしさを実感しました。

2. ナガハマディ地方その他における JICA 専門家達の活動について

我妻部長のよき指導の下で水谷先生はじめ専門家達が精力的に活動しており、まさに上はアインシャムス大学から下は地方病院まで現地語をたくみにあやつりながらひろく人々の間に入り込んで溶けこもうと努力している専門家達の姿には非常に感銘を受けました。とくにナガハマディ地方の検診車活動ははじまってほぼ1年、ようやく活動が根づいて軌道に乗ろうという時期にあるものと思われまが、文化・習慣・言語その他すべてが異なる国で、よくここまで到達できたものと思われま。これからの活動がいままでの基礎的努力の成果を実りあるものとするかどうかを決めることになるでしょう。さらに続けての援助を期待したいと思われま。

(小林充尚)

4. 資 料

4—1 協議議事録

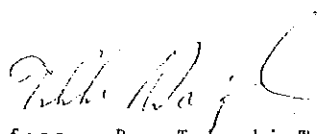
MINUTES OF DISCUSSIONS BETWEEN THE JAPANESE CONSULTATION
TEAM AND THE NATIONAL POPULATION COUNCIL ON THE PROJECT
FOR FAMILY PLANNING AND MATERNAL AND CHILD HEALTH


The Japanese Consultation Team (hereinafter referred to as "the team") organized by the Japan International Cooperation Agency (hereinafter referred to as "JICA") headed by Professor Takashi Wagatsuma, visited the Arab Republic of Egypt from February 9th to February 21st., 1992 for the purpose of reviewing the work progress and working out the details of the Tentative Schedule of Implementation of Technical Cooperation Program for the Family Planning and Maternal and Child Health Project (hereinafter referred to as "the project")

During its stay in the Arab Republic of Egypt, the team exchanged views and had a series of discussions with the Egyptian authorities concerned in respect of desirable measures to be taken by both governments for the successful implementation of the project.

As the result of the discussions, both parties agreed to recommend to their respective governments the matters referred to in the documents attached hereto.

Gairo, 20th. February, 1992


Professor Dr. Takashi Wagatsuma
Leader of the Consultation Team,
Japan International Cooperation
Agency


Professor Dr. Maher Mahran
Secretary General,
National Population Council

MEMBER OF DISCUSSION PANEL

JAPANESE SIDE

1) The Consultation team

Prof. Dr.	Takashi	Wagatsuma	Leader of the team
Mr.	Akira	Hirai	IEC
Ms.	Yoko	Kobayashi	Nursing

2) Experts

Prof.	Kazuo	Maeda	Short-term expert in Ultra- sonography
Prof.	Mitsunao	Kobayashi	Short-term expert in Ultra- sonography
Dr.	Tetsuya	Mizutani	Team leader of the Japanese team and OB/GYN doctor
Ms.	Kahoru	Tanno	MCH Nursing
Ms.	Yumiko	Yokozeeki	I E C
Mr.	Syuji	Noda	Coordinator

3) JICA Egypt Office

Mr.	Naoyuki	Kobayashi	Deputy representative of JICA office, Egypt
-----	---------	-----------	--

N.W.

M.M.

EGYPTIAN SIDE

Prof. Dr. Maher Mahran	Secretary General of National Population Council
Eng. Soliman Reda	Chairman of the Aluminum Company of Egypt
Prof. Dr. Ibrahim Abou Sinna	Chairman of the Center of Prenatal Diagnosis Ain Shams University
Dr. Amira Ibrahim Ahamed Saleh	Director of ultrasound unit Ain Shams University
Dr. Mohamed Amin El-Hawary	Director of F/P & MCH Project Naga Hammady
Dr. Abdel Razak El-Scnbesy	Director of Naga Hammady General Hospital
Mr. Foad Fekry	Director of NPC Qena Office

ATTACHED DOCUMENT

1 NAME OF THE PROJECT

The Pilot Project of Family Planning and Maternal and Child Health in
Naga Hammady Area.

2 AIM OF THE PROJECT

The aim of the project is to demonstrate a new model on how to improve
the quality and provision of well-advanced family planning and maternal
and child health services in rural area.

F. A.

M. M.

3 ACTIVITIES OF THE PROJECT

The project shall endeavor:

- 1) To extend mobile services in diagnosis of maternal examination and perinatal care using mobile units.
- 2) To survey targeted communities to identify problems in family planning and maternal and child health.
- 3) To plan the baseline activities of the project and methods for implementation of monitoring and evaluation.
- 4) To conduct training of the personnel for mobile units.
- 5) To utilize the mobile units for provision of well-advanced family planning and maternal and child health services to the targeted communities together with the appropriate Information Education and Communication (hereinafter referred to as "IEC")
- 6) To conduct regular follow-up of activities in monitoring and evaluation.
- 7) To submit a progress report to NPC, JICA and related organizations
- 8) To conduct training for doctors in Ultra-sonography.

4 DURATION OF THE PROJECT

The duration of the project is three (3) years from 19th. September, 1989 to 18th. September, 1992.

5 PROJECT IMPLEMENTATION ENTITY

The National Population Council of Arab Republic of Egypt will assume overall responsibility of the project.

P. A.

P-1-170

6 PROJECT SITE

- 1) The headquarter is located at Naga Hammady Aluminum Company of Egypt Complex.
- 2) The targeted communities will be selected from Naga Hammady in Qena governorate.
- 3) The project will cover the area of Naga Hammady Aluminum Company of Egypt Complex and surrounding communities.

7 ACHIEVEMENT OF THE TECHNICAL COOPERATION (as of January 1992)

1) Dispatch of Japanese experts

Long-term experts.

- | | |
|--------------------------|-------------------------------|
| (1) Dr. Tetsuya Mizutani | Team leader and OB/GYN doctor |
| (2) Ms. Kahoru Tanno | MCH nursing |
| (3) Ms. Yumiko Yokozeki | I E C |
| (4) Mr. Shuji Noda | Coordinator |

Short-term experts.

- | | |
|------------------------------|------------------|
| (1) Dr. Tetsuya Mizutani | OB/GYN doctor |
| (2) Mr. Akira Hirai | Video production |
| (3) Prof. Kazuo Maeda | Ultra-sonography |
| (4) Prof. Mitsunao Kobayashi | Ultra-sonography |

2) Egyptian counterparts

- | | |
|--|---|
| (1) Prof. Dr. Maher Mahran | Secretary General of National
Population Council |
| (2) Prof. Dr. Ibrahim Abou Sinna
<i>I. A.</i> | Chairman of the Center of
Prenatal Diagnosis (Cairo) |

M-1 M-1

- (3) Dr. Amira Ibrahim Ahamed Saleh Ultra-sonography (Cairo)
- (4) Dr. Mohamed Amin El-Hawary Gynecology (Naga Hammady)
- (5) Dr. Mohamed Rabie Shehab Obstetrics (Naga Hammady)
- (6) Dr. Hazem Saad Abd El-Salam Pediatrics (Naga Hammady)
- (7) Dr. Mohamed El-Shaheert Pediatrics (Naga Hammady)
- (8) Mrs. Sowad Nursing supervisor (Naga Hammady)
- (9) Ms. Doar Mohamed Siliman Assistant nurse
- (10) Ms. Amal Rabie Ahamed Assistant nurse
- (11) Ms. Jikhan Iuys Assistant nurse
- (12) Mr. Gamal Nahes IEC (Cairo)
- (13) Mr. Abd El-Hamid IEC (Cairo)
- (14) Mrs. Samia Zakaria IEC (Naga Hammady)
- (15) Ms. Saha IEC (Naga Hammady)
- (16) Mr. Ibrahim Admin. (NPC Cairo)
- (17) Mr. Foad Feckry Admin. (NPC Qena)
- (18) Mr. Shamurook Admin. (Aluminium Com.)
- (19) Ms. Salwa Admin. (Naga Hammady)
- (20) Mr. Ahamed Admin. (Naga Hammady)

3) Acceptance of counterparts in Japan

(1) Short-term visit

Prof. Dr. Maher Mahran Secretary General of
National Population Council

(2) Training (Individual)

- 1) Dr. Mohamed Amin El-Hawary Gynecology
- 2) Dr. Mohamed Rabie Shehab Obstetrics
- 3) Dr. Amira Ibrahim Ahamed Saleh Ultra-sonography
- 4) Dr. Aida Mohsin Megahed Ultra-sonography

F.A.

M.M.

- 5) Dr. Hazem Saad Abd El-Salam Pediatrics
- 6) Dr. Mohamed El-Shaheer Pediatrics
- *) Dr. Lobna El-Assuty Prenatal Diagnosis

(start from the end of March 1992)

Training (Group)

- 1) Mr. Abd El- Hamid Audio Visual
- 2) Mrs. Mona Audio Visual

4) Provision of equipment

Japanese fiscal year 1989

- 1) two mobile units
- 2) four ultrasound machines
- 3) equipment for F/P and MCH
- 4) one 4WD car
- 5) equipment for training
- 6) equipment for IEC
- 7) copy machine

Japanese fiscal year 1990

- 1) AV Van
- 2) equipment for IEC
- 3) equipment for F/P and MCH
- 4) one 4WD car
- 5) equipment for training
- 6) equipment for lab. and medical examination

Japanese fiscal year 1991

- 1) One ultrasound machine SSD-500
- 2) Probes for ultrasound machine
- 3) Equipment for IEC
- 4) Equipment for F/P and MCH

7.11

M.M.

5) Anesthetic machine

Above mentioned equipment and instrument are in use at the respective site.

5) Project Activities

- 1) Start the mobile unit's operation
- 2) Start the AV Van service
- 3) F/P and MCH seminar for village opinion leaders or religious leaders
- 4) Preparation and trial start of home visit
- 5) Research on daya(TBA) and preparation for their training
- 6) Production of advertising and educational goods, such as calendars , keyholders etc.
- 7) Arrangement for AV equipment at IEC Dept.in NPC
- 8) Proceed the new building for the seminar in Naga Hammady
- 9) Training for the doctor in Ultra-sonography

8 IMPLEMENTATION PLAN FOR THE REST OF THE PROJECT PERIOD

(1) Dispatch of Japanese experts

1) Long-term experts

Team leader and OB/GYN doctor	Dr. Tetsuya Mizutani
MCH Nursing	Ms. Kahoru Tanno
IEC	Ms. Yumiko Yokozeki
Coordinator	Mr. Shuji Noda

2) Short-term experts

- 1) IEC (Video production)

P.N.

P-1-M

2) IEC (AV equipment installation)

3) MCH (OB/GYN doctor)

4) MCH (Community Medicine)

5) Nursing

6) Medical statistics

(2) Egyptian counter part

1) Doctor	Prof. Dr. Maher Mahran	(Cairo)
	Dr. Mohamed Amin El-Hawary	(Naga Hammady)
	Dr. Mohamed Rabie Shehab	(Naga Hammady)
	Dr. Hazem Saad Abd El-Salam	(Naga Hammady)
	Dr. Mohamed El-Shahcer	(Naga Hammady)
	Prof. Dr. Ibrahim Abou Sinna	(Cairo)
	Dr. Amira Ibrahim A. Saleh	(Cairo)
	Dr. Lobna El Assuty	(Cairo)
2) Nurse	Mrs. Sowad	(Naga Hammady)
	Ms. Doar Mohamed Siliman	(Naga Hammady)
	Ms. Amal Rabie Ahamed	(Naga Hammady)
	Ms. Jikhan Iuys	(Naga Hammady)
3) IEC	Mrs. Samia Zakaria	(Naga Hammady)
	Ms. Saba	(Naga Hammady)
	Mr. Gamal Nahes	(Cairo)
	Mr. Abd El-Hamid	(Cairo)
4) Administration	Ms. Salwa	(Naga Hammady)
	Mr. Ahamed	(Naga Hammady)
	Mr. Shamurook	(ACE)
	Mr. Foad Fekry	(NPC Qena)
	Mr. Ibrahim	(NPC Cairo)

7. W.

P.T. 17

(3) Acceptance of counterparts in Japan

- *) Nursing
- *) OB/GYN doctor
- *) IEC

(4) Provision of equipment

- 1) mobile unit
- 2) equipment for F/P and MCH
- 3) equipment for IEC activities
- 4) equipment for nursing training
- 5) equipment for ultrasound training seminar

(5) Project activities

- 1) Expansion of the covering villages by mobile unit services in Naga Hammady area
- 2) Expansion of the covering area by AV Van service
- 3) Start the pediatrics service
- 4) Installation of IEC equipment at IEC Department , NPC
- 5) Completion of the new building for seminar in Naga Hammady
- 6) Start dya(TBA) training in Naga Hammady area
- 7) Training for doctors in ultra-sonography
- 8) To conduct fesibility studies on the F/P and MCH service and education utilizing mobile unit and AV Van
- 9) Other necessary activities concerning the project

F.A.

PT. 17.

JICA